



# まんまるの広場



「池尻は、こころの実家」いわきやすお

## 五行歌パネル展を行なう

六月一日から一三日までの期間、まんまるの木のギャラリーで五行歌&画像の作品展を開催しました。五行歌とは五行で書く歌のことで、五行で自分の思いや情景を自由に表現する新詩形をいいます。五七五の定型や字数の制限、また季語もありません。作者の呼吸・リズムを大切にしながら、思ったことを自由に表現することができます。

平成一六年からこの創作を始めた私が今まで詠んだ歌に、イメージ写真を付けてもらいパネルにしました。今回は二〇枚のパネルを展示しました。家で料理した時にひらめいたこと、食材をテーマにした歌などが中心でした。まんまるの木のギャラリーは落ち着いた空間で、展示用の白壁と画像の色彩がマッチしました。私自身、こういった個展を行なうのは初めてでしたが、大勢の方にお越しいただいたことを光栄に思っています。歌と画像の双方が、余分な主張をせず、程よいバランスを保っていたのが良かったようです。折り合いをつけるという言葉があります、うまく折り合った展示会でした。

## まんまるの木が取り持った縁と再会

展示会にお越しいただいた方のなかに、世田谷にゆかりのある方がおられました。鎌倉からお越しのご婦人は、三〇年くらい前に中里商店街そばのアパートに住んでいたことがあったようです。場所は上馬一丁目で、今その場所には「上馬サンホーム」という名称のマンションが建っていたということでした。最初のお子さんをその場所で産んだということ、今回の展示をきっかけに思い出めぐりしたことを教えてくれました。

また、別な歌会に所属するご婦人は、都営池尻アパートに二年間くらい住んでいたということでした。この方も、銭湯「月の湯」、キクノミズ薬局あたりを散策したようです。玉電池尻停留所前にあった産婦人科でご長女を出産したことなどを話してくれました。これらのことは、まんまるの木が会場となったことで分かったことです。別なところでやっていたら封印されたままになっていた情報で、まるが持つ縁(円)の不思議さを知らされました。

## こころの実家に里帰り

国道246号線は大山街道と呼ばれ、伊勢原にある大山参りへの道となっていました。今は、首都高速3号線が上を走り、路面電車だった玉電は地下に潜って東急田園都市線と呼び名も変わりました。

開催期間中、展示会場のまんまるの木に私は歩いて行きました。勤務している会社のある代沢から一五分程度でした。昔の風景を思い出しながら歩いて

行きました。三宿二丁目と池尻四丁目に挟まれた道のそばに来たとき、ここには騎兵山という遺跡があり、三宿田圃と呼んでいた水田もあったことなどが思い浮かびました。騎兵山には高層マンションが建ち、脇を流れていた目黒川も暗渠になり、花と緑の遊歩道に変わっていました。

世田谷区池尻町157番地、私が十歳まで住んでいた自宅の住所です。家の前には学校の校庭があり、まだフエンスのなかった学校に校庭から通学しました。小学校に入学したころは、学校の周りには野菜畑もあり、菜の花の上を飛びまわるモンシロチョウを指で捕らえたことを覚えています。家が引越した関係で、五年生から目黒の東山小に転校しました。ですから、池尻は私のふるさとでもあったのです。池尻稻荷神社の秋祭りや縁日には、並んだ露店を楽しみに出かけたものでした。そんな縁のある場所でも個展を行なうことになったのです。まんまるの木のオーナーである豊島さんとお話していくなかで、当時の思い出をひも解きました。こころの実家である池尻に里帰りした一〇日間でしたが、ふるさとさんは、綿アメのような柔らかさで私を迎えてくれました。やはり実家はいいなと心が温まったのでした。そして、次の目標に向かう力を与えてくれました。

## 写真ハガキを仏壇に供える

今年の二月に母が九〇歳で旅立ちました。昨年の六月、股関節を骨折したことが原因で歩行が困難となり、最後は寝たきりの日々が続きました。私が詩の応募で入選した作品を絵ハガキにして送ると、居間の柱に釘で留めてくれました。最後の親孝行は、今年一月のメトロ文化財団が募集した東京をテーマにした詩が入選したことでした。これも絵ハガキにして渡しました。この歳になっても、母から「がんばったね」という言葉がほしかったのです。残念ながら今回の展示を母に見てもらうことは出来ませんでした。二〇枚の作品から抜粋した五枚をハガキにし、母の仏壇に供えました。「よかったね」と母の遺影が私にハナマルをくれた気がしました。

六月に五行歌の展示をされた岩城さんより素敵なエッセイを投稿いただいたので、ご紹介します。今月から牛女だよりにまんまるの広場をつくりました。イラスト・エッセイ・詩・俳句・悩み事・相談ごとイベント紹介などお気軽にどうぞ。みんなでわいわいしましょう。皆さんの投稿お待ちしております。

「まんまるの木」になかなか来られない方、どうぞ「」の場を「ご利用ください。」

## あなたのエッセイ募集します!

現在「まんまるの木」小塚さんが描いた「歌舞伎座・最終日」エッセイを募集します。「歌舞伎座」に特別な思い出がある方、どしどし応募ください。応募者にはまんまるの木の記念品1000円分を贈ります。